

1. はじめに

(1)これまでの歩みと成果 — 揺るぎない土台の構築

本校は過去2年間、札幌市学校教育の指針に基づき、教育活動の「骨太化」と「具現化」に邁進してきた。

■令和6年度:教育活動の「核」を明確化

「人間尊重の教育」を基盤として「自治的な活動」を推進するとともに、自校の教育活動に対する問題意識を共有し、それらを踏まえた議論を通して、本校が育むべき資質・能力を『粘り強く挑む力』『心をつなぐコミュニケーション力』(以下「本校が重視する二つの力」という)として定義できたことは大きな成果である。

■令和7年度:実践の「広がり」と「深化」

「本校が重視する二つの力」の育成の具現化を図るとともに、「教育効果を生み出す“ごちゃませ”」を合言葉に、「みかほらしいインクルーシブ教育」を推進した。コミュニティ・スクール(CS)や「みかほっ子応援団」を核とした多様な人的リソースとの連携が飛躍的に進み、道徳科を窓口とした「課題探究的な学習」に関わる研修を通して、『心をつなぐコミュニケーション力』の育成に資する「協働探究」の必要性について深めることもできた。

また、令和8年度に向け、文部科学省の「教育課程柔軟化サキドリ研究校事業」(以下「サキドリ事業」という)に申請し、研究校に指定されるなど、教育課程の抜本的な見直しを図ることができた。

(2)美香保中学校の教育スキーム

この2年間で、本校の教育活動のスキーム(枠組み)は次のとおり完成した。

〈教育の根幹〉

目指す学校像『ばらばらで一緒～みんながみんなの中で自由に自分らしく生きられる学校』を、本校の教育の根幹とし、「みかほらしいインクルーシブ教育」「自治的な活動」を通して、人間尊重の教育を推進する。

〈育成の柱〉

「自治的な活動」と「課題探究的な学習」を二本柱に据え、「本校が重視する二つの力」を育成する。

〈学びの拡張〉

異学年交流や多様な人的リソースとの連携により、多様な人との関わりの中で生まれる本物の経験を通して子どもたちの世界を広げる。

(3)令和8年度の展望 — 「形」から「命」へ

土台が整った今、本校は「形をつくるフェーズ」から「質を高め、命を吹き込むフェーズ」という、極めてエキサイティングな時期に移行する。今年度は「サキドリ事業」を活用し、これまでの取組をさらに強固なものにするため、以下の5点を重点的に推進する。

- ①協働探究の充実 ②特別活動の拡充(調整授業時数の上乘せ) ③小中一貫した教育の推進
- ④“そもそも”を問う研修の充実(調整授業時数の充当) ⑤余白の創出(柔軟な教育活動のための環境整備)

(4)変化を恐れない「実践者」として — ブレイクスルーを起こす

「完成」は固定ではない。これからは、創り上げたスキームを状況に応じて柔軟に再構築できる「レジリエンス(しなやかな強さ)」が問われる。私たちは教育者として知識・技能を十分に習得するだけでなく、それを文脈に応じて改変・組み合わせながら、めまぐるしく変化する状況の中で最善の打開策を見出す「実践者」であり続けなくてはならない。それは、走りながら考え、「よりよきものを求めて」いくという姿勢そのものである。

子どもたちが抱える困難や課題が多様化する今こそ、「工夫・アイデア」と、多様なレンズによる「集合知」が必要である。全教職員が心をつなぐコミュニケーションを大切にし、子どもたちと共に「粘り強く挑むチーム」でありたい。

2. 目指す学校像(根幹)



美香保中学校

地域に浮かぶ船

- 【 判断の拠り所 】 『子ども一人一人を大切にしているか。』
『子どもを社会につなげているか。』
『子どもの成長の機会を奪っていないか。』
- 【 基本的な姿勢 】 『子どもの声を聴き、一緒に考える』

↑

令和8年度 全ての教育活動貫く重点（札幌市学校教育）

3. 目指す生徒像

『粘り強く挑む生徒』『心をつなぐコミュニケーションを図る生徒』

※ 「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力『粘り強く挑む力』『心をつなぐコミュニケーション力』に準ずる。

4. 11の基本方針

※ これから示す内容には、令和8年度の重点推進項目や、昨年度の基本方針をブラッシュアップした箇所を下線で表記している。

2026年度の指針「共に創る豊かな学び」

(1) チーム美香保中

「自分色」と「創造性(工夫・アイデア)」を發揮

学校づくりに必要な大切な一人として、
「～したい」＋「考える」＋「動く」＝「残す」

温かい風土・楽しく

教職員一人一人が「自分が大切にされていると実感できる」チームづくり

多様なレンズによる集合知の構築

俯瞰して関連付けて骨太にする

目的の明確化

対話

ああでもない こうでもない

問題意識の共有

言ってみる やってみる

上質で持続可能な業務の推進

多様な人的リソースとの連携～スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー・学びのサポーター・相談支援パートナー・学校司書・部活動指導員・学生ボランティア・大学院生ボランティア・学校運営協議会委員・地域学校協働推進員・みかほっ子応援団等

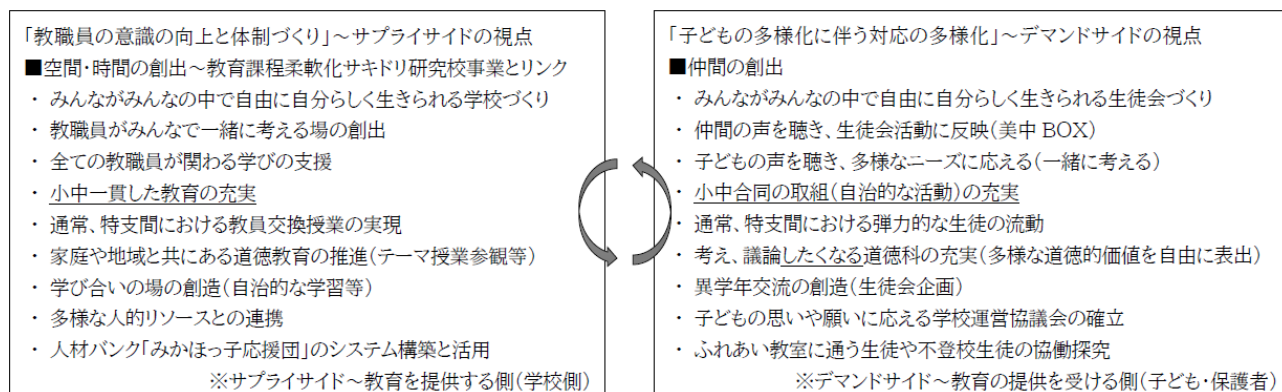
※ 「多様なレンズによる集合知の構築」「俯瞰して関連付けて骨太にする」「目的の明確化」「問題意識の共有」「言ってみる やってみる」という視点は、「上質で持続可能な業務の推進」に資するものである。ここでいう「上質で持続可能な業務の推進」には、①定められた規則に基づく正確な事務処理と経理業務の遂行、②校務支援システム等の活用における個人情報の保護・保管・処理等への十分な配慮が含まれる。特に個人情報の取扱いについては、美香保中学校の情報管理規程等に基づき徹底を図る。

※ カリキュラム・オーバーロードやワーク・オーバーロードといった問題を全教職員で共有し、「子ども中心の教育課程」「焦点化を図った教育課程」「余白のある教育課程」という三つの視点を踏まえて教育課程の抜本的な見直しを進めてきた。令和8年度は、文部科学省の「教育課程柔軟化サキドリ研究校事業」を積極的に活用し、チーム美香保中の教職員が一丸となって新たな教育課程の実現に取り組む。

※ これらの取組を実現していく中で、働きがい改革と働き方改革をバランスよく進めていく。

(2) 人間尊重の教育

- 「みんな違う」を原点として多様性を認め合い、「本物の経験」を通して、「自由」と「共生」を学ぶとともに、責任ある行動をとる力を身に付けられるよう、**特別活動を拡充**し、「自治的な活動」の深化を図る。
- 「相互承認の感度」の醸成に向けて、「**教育効果を生み出す“ごちゃませ”**」を合言葉とした「みかほらしいインクルーシブ教育」の側面から人間尊重の教育の充実を図る。



(3) 「学ぶ力」の育成 ※「学ぶ力」育成プログラムに反映

- 相互承認の感度の醸成、「本校が重視する二つの力」の育成を中軸とした教育課程の編成を行うとともに、全ての教育活動のねらいに位置付けて実践する。
- 課題探究的な学習を取り入れた授業の充実を図る。
 - ・ **各単元において、子どもが対話によって知識・思考を関連付けて駆動する協働探究を取り入れた授業づくりを行う。**
 - ・ **道徳科は「探究の土台」であり、教科・総合的な学習の時間・特別活動における協働探究の基盤と捉え直す。**
- 「本校が重視する二つの力」を身に付けられるよう、**特別活動を拡充**し、「自治的な活動」の深化を図る。
- 「課題探究的な学習」と「自治的な活動」における協働探究の手立てとして、**サークル対話の推進**を図る。(P9参照)
- 教科横断的な学びの実現に向けて、**総合的な学習の時間の再構築**を図る。
 - ・ **全校横断型プロジェクト「美中生ウェルビーイング・チャレンジ」**を再構築の視点とする。
 - 全校横断型～教育効果を生み出す“ごちゃませ”の拡充
 - ウェルビーイング～「SDGs」から「ウェルビーイング」へ
 - チャレンジ～子ども自らの世界を広げる社会参画

(4) 「豊かな心」の育成

- **考え議論したくなる道徳科**の授業の推進を図る。(多様な道徳的価値を自由に表出できる道徳)
 - ・ **「主体的な判断の重要性」「道徳的価値の対立を乗り越える必要性」「道徳的実践の強調」を推進の視点とする。**
 - 「主体的な判断の重要性」～深く考え抜いた末に見出す「**納得解**」
 - 「道徳的価値の対立を乗り越える必要性」～議論を通して見出す「**共通解**」
 - 「道徳的実践の強調」～「**主体的な社会参画**」
 - ・ **全校ごちゃませ道徳の推進**を図る。
- 家庭や地域と共にある道徳教育の推進を図る。

(5) 「健やかな体」の育成 ※「健やかな体」育成プログラムに反映

- 子ども自らが体力づくり・健康づくりに向かう取組の充実を図る。(基本的生活習慣の確立・食育)
- 体を動かすことの楽しさを実感する機会を創出する。(美中オリンピックの拡充)

(6) 一貫性・連続性のある教育 ※「小中一貫した教育」グランドデザインに反映

- 課題探究的な学習・自治的な活動・学びの支援を窓口とした小中一貫した教育の推進を図る。
・ 「サキドリ事業」を活用し、パートナー校合同研修会やパートナー校合同の取組を行う。
- パートナー校との『縦の連携』を図るだけでなく、子どもを社会につなげていけるよう、コミュニティ・スクールの仕組み、みかほっ子応援団を活用して、『横の連携』を図る。

(7) 家庭や地域と共にある学校づくり ※社会に開かれた教育課程の実現 (P6参照)

- 「みかほらしいコミュニティ・スクールの七つの肝」に基づく学校運営協議会の推進を図る。
- 多様な人的リソースとの円滑な連携を図る。特に、みかほっ子応援団との連携の充実を図る。

(8) いじめの防止

- 学校が子ども一人一人にとって安全・安心に生活できる場所であるために、日頃から子どもの声を聴き、声なき声にもアンテナを立てながら、いじめの芽を積極的に認知し、その解決に向けて子どもと一緒に考える。(早期発見)
- いじめ防止対策委員会では、専門的な見地も踏まえながら、多様なレンズによる集合知の構築を図り、『いじめ防止対策推進法』に基づく迅速かつ組織的な対応を徹底する。
- いじめ防止に向けた本校の考えや具体的な取組等を積極的に家庭や地域に発信し、意見等も伺いながら、学校・家庭・地域が一体となった体制づくりを行う。
- いじめ防止につながる発達支持的生徒指導の充実を図る。
 - ・ 『ばらばらで一緒』の学校づくりに向けて自ら実行する自治的な活動を推進する。
 - ・ 自他の命を大切にする教育の充実を図る。

(9) 子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援・教育(誰一人取り残さない)

- 子どもの声を聴き、社会モデルの視点を踏まえてその声に応える。(教育環境を変える)
- 子ども一人一人の多様なニーズに応じた学びの場・居場所を提供する。(自由と自分らしさの保証)
- チーム美香保中が一体となって関わる「学びの支援」の充実を図る。(特別支援学級・ふれあいルーム・不登校の生徒等の学びの質の向上含む)

(10) 教職員の資質向上

- 「チーム美香保中」のあるべき姿を(P3参照)発揮し、変化を恐れない「実践者」としての挑戦を積み重ねる。ひいては、教職員が子どもにとっての率先垂範となる。
- 「サキドリ事業」を活用し、“そもそも”を問う校内研修会の充実を図る。(目的意識の共有)
- 子ども理解の感度を高め、子ども一人一人に適切に委ねる。
- ICT 機器やデジタル教材等の ICT 活用指導力の向上に努めるとともに、生成 AI を適切に活用する。(子どもによる生成 AI の活用も見据える。)

(11) 美香保中らしい文化

- 心をつなぐ「挨拶」「合唱」「装飾」「自治的な活動」「異学年交流」という本校の美しい文化の香りを永遠に保っていく。※「美香保中学校 合唱スタンダード」の構築。

〈みかほらしいコミュニティ・スクール〉

学校は地域に浮かぶ船 みかほらしいコミュニティ・スクールの基本的な考え方

- 学校運営協議会は、学校運営に関わる協議会である。
- 学校運営協議会は、子どもを社会とつなげる窓口である。
- 学校運営協議会は、多様なレンズによる集合知を構築していく場である。
- 学校運営協議会の導入に伴い、みかほっ子応援団を設置する。みかほっ子応援団とは、人材登録制度により、「知識や技能、経験等を学校の教育活動に生かしてみたい」「みかほっ子の学びや成長を支えたい」という家庭や地域の方に登録していただき、みかほっ子や、学校、学校運営協議会の求めに応じて、教育活動の支援をしていただくものである。
- 学校、家庭・地域が、みかほっ子の姿（学びや成長）を通して、喜びを共有できる関係に。
- 教職員にとっては、「学校運営に携わる仲間が増える。」という意識で。
家庭や地域にとっては、「みかほっ子や学校の応援団になる。」という意識で。
- コミュニティ・スクールの上位目的は、多様な人が子どもの学びや成長に関わり、子どもの相互承認の感度を醸成していくこと。

学校は地域に浮かぶ船 みかほらしいコミュニティ・スクールの七つの肝

つながるみかほ

一人一人が「自分が大切にされている」と実感できるみかほの子
～「私」には「私」にしかないよさがある～



概要 1

札幌市立美香保中学校 令和8年度 学校経営の方針



概要 2

11の基本方針 ～ブレイクスルーを起こす

教育効果を生み出す“ごちゃませ”

多様な人との関わりの中で生まれる本物の経験を通して子どもたちの世界を広げる。



学校像を実現するための具体的な方針

中心理念「ばらばらで一緒」を全ての活動で実現するための11の柱です。



(1) チーム美香保中

新たな教育課程の実現へ

- ・自分色/工夫・アイデア
- ・温かい風土/楽しく
- ・動きがい/働き方



(2) 人間尊重の教育

相互承認の感度を醸成

- ・自治的な活動（特活）
- ・みかほらしいインクルーシブ教育



(3) 「学ぶ力」の育成

二つの力の育成

- ・育成の二本柱
- ・協働探究
- ・道徳科は探究の土台



(4) 「豊かな心」の育成

道徳科を要に

- ・考え、議論したくなる
- ・共通解と納得解
- ・主体的な社会参画



(5) 「健やかな体」の育成

体を動かす楽しさを

- ・自ら体力づくり
- ・自ら健康づくり
- ・基本的生活習慣



(6) 一貫性・連続性のある教育

小中一貫した教育の充実

- ・サキドリ事業の活用
- ・パートナー校合同研修会
- ・パートナー校合同の取組

美しい香りの文化を保つ

- ・心をつなぐ「挨拶」「合唱」「装飾」「自治的な活動」「異学年交流」

(11) 美香保中らしい文化



変化を恐れない実践者

- ・そもそもを問う研学会
- ・子ども理解の感度
- ・生成AIの適切な活用

(10) 教職員の資質向上



誰一人取り残さない

- ・社会モデルの視点
- ・学びの場、居場所の保障
- ・学びの支援委員会

(9) 子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援・教育



いじめ防止基本方針の徹底

- ・早期発見
- ・迅速かつ組織的な対応
- ・発達支持的生徒指導

(8) いじめの防止



多様な人的リソースとの連携

- ・社会に開かれた教育課程
- ・みかほらしいCS
- ・みかほっ子応援団

(7) 家庭や地域と共にある学校づくり



粘り強く挑む力



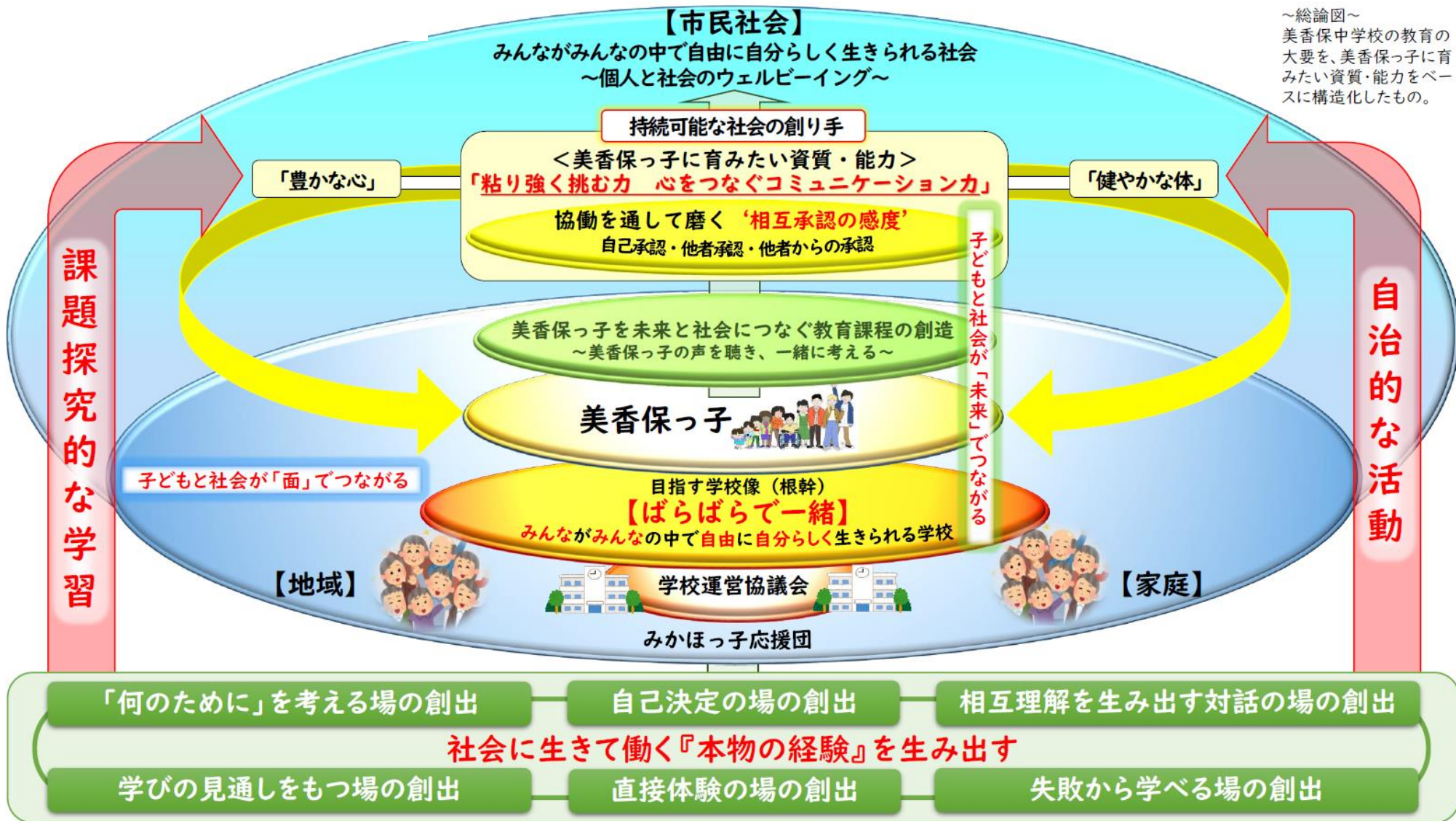
心をつなぐコミュニケーション力

育成の二本柱

自治的な活動

課題探究的な学習

【参考1】～美香保中学校教育～総論図



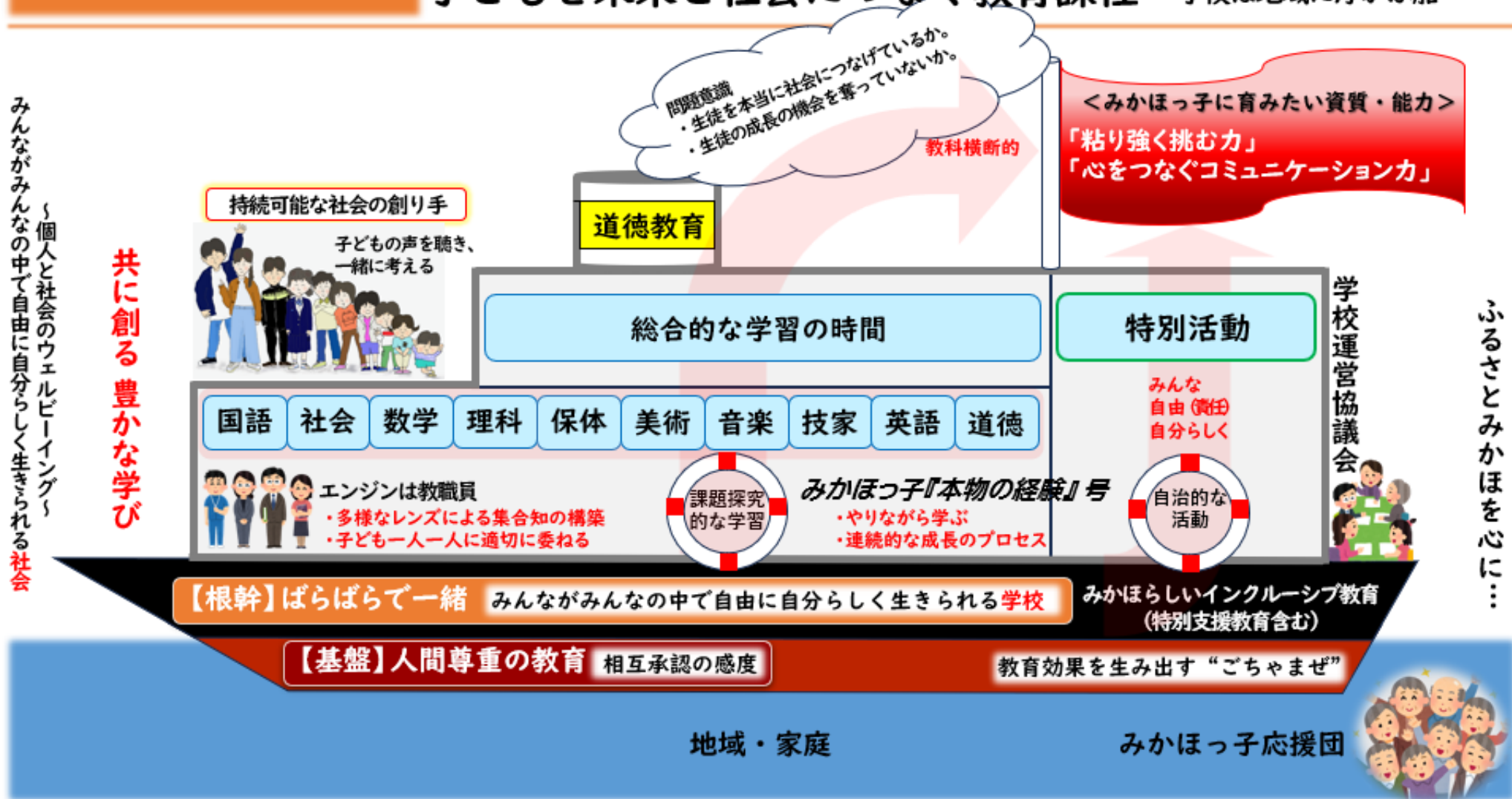
～総論図～
美香保中学校の教育の大要を、美香保っ子に育みたい資質・能力をベースに構造化したもの。

※ 「美香保っ子」は本校生徒のことを指す。「みかほっ子」は美香保中学校区（美香保中・美香保小・北光小）の児童生徒を指す。

※ 総論図内の「美香保っ子を未来と社会につなぐ教育課程」については、次のページにて示すものとする。

【参考2】～美香保っ子を未来と社会につなぐ教育課程

令和8年度 札幌市立美香保中学校 子どもを未来と社会につなぐ教育課程 ～学校は地域に浮かぶ船

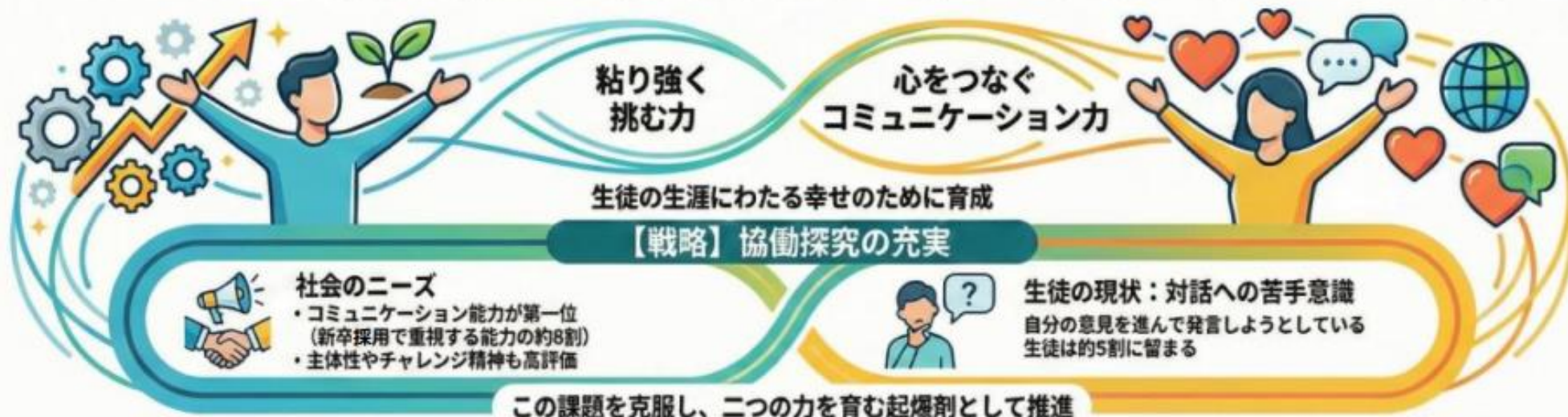


※ みかほらしいインクルーシブ教育とは、全ての子どもの多様なニーズに対応できるように、全ての子どもを包含する教育のことを言う。共生社会の形成を目的としており、本校においては、『ばらばらで一緒』、つまり、みんながみんなの中で自由に自分らしく生きられる学校社会の形成を目的とする。

※ 「特別支援教育は、共生社会の形成に向けて、インクルーシブ教育システム構築のために必要不可欠なものである。」(文部科学省)

【参考3】美香保中が目指すサークル対話

サークル対話で拓く！協働探究と生徒の未来を育む二つの力



【戦術】サークル対話を取り入れる

サークル対話をもたらす3つのメリット



全員の顔が見える円形配置は「誰一人取り残さない」意識を生み、失敗や弱さも出せる安心な場を創出



円には序列がなく、全員が対等な立場で発言しやすく、本質的な対話が促進される



顔と声が届く距離感は、当事者意識や仲間としてのつながりを強め、責任感を育む

筋トレに学ぶ！2つの対話アプローチ

高負荷・低回数：コア・サークル対話



(筋力トレーニング)
単元の「山場」として1回だけ行う深い対話。思考力・判断力・表現力を瞬発的に高める決定的な成長機会とする

目的

自分の考えを練り直し、他者の視点とぶつかることで、知識や思考をコネクト&ドライブさせ、思考の再構築を図る

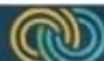
低負荷・高回数：ステップ・サークル対話



(筋持久力トレーニング)
単元を通して「ちょっと話し合ってみよう」という軽めの対話を多数行う。思考の習慣や柔軟性を養う

目的

日々の学習の中で互いの考えを受け止め合うことを繰り返し、持続的に思考力を高めるための基礎(思考の基礎)を強化する



全教職員で、二つのサークル対話を実践しよう。授業や自治的活動のベースとして徹底し、私たちが育てたい二つの力に大きな変化を！

